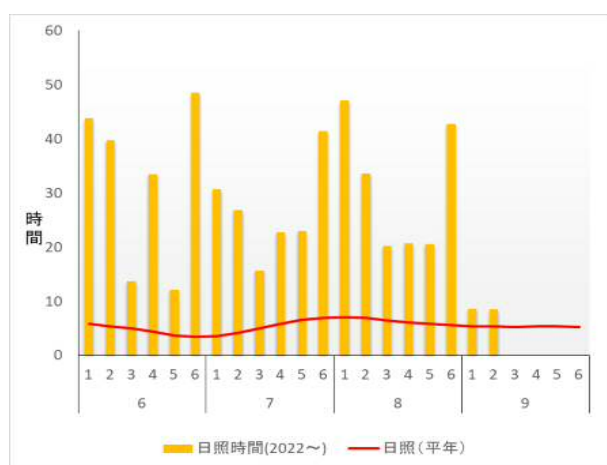
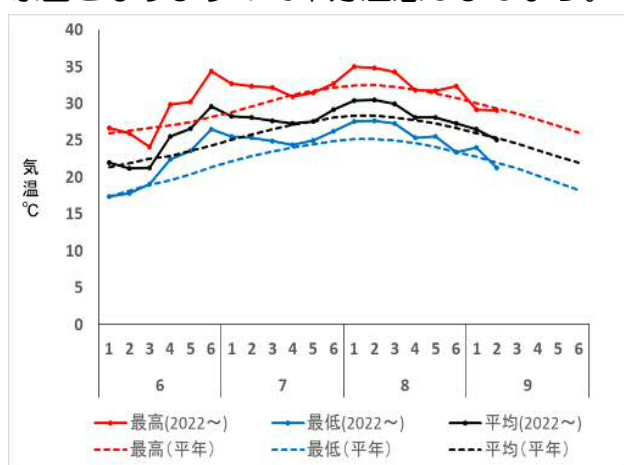


大豆の生育概況と病害虫対策について

1 生育概況

8月末時点で生育は概ね順調とみられ、6月播種のほ場では、莢伸長期を迎えています。9月6日に台風11号が接近し、一部のほ場で倒伏がみられています。今後も台風接近や、まとまった降雨があった場合は、ほ場内の停滞水の排水に努めましょう。

病害虫では、ハスモンヨトウによる白変葉が一部のほ場でみられますが少ない状況です。一方、カメムシ類の発生は平年に比べ多い状況です。カメムシ類は被害粒や青立ち株の発生原因となりますので十分注意しましょう。



2 今後の対策

病害虫対策

○ハスモンヨトウ

防除適期は、発蛾ピークから約10日後です。近年の発生状況では9月中下旬頃です。併せて、ほ場での早めの防除を行いましょう。

○カメムシ類及び紫斑病

これらの病害虫の防除適期は、9月頃（開花後30～35日頃）です。

水稻の収穫が進むにつれて、カメムシ類は大豆ほ場へ集まってきます。カメムシ類による子実被害は収穫期まで続きますので、ほ場内での発生状況を確認しましょう。発生が多い場合は、使用期限と使用回数に注意し、10月中旬までに下記の農薬で防除を実施してください。（開花後30日前後で1回防除をしている場合でも、発生が多い場合は2回目の防除を実施してください。）

紫斑病は、生育適温が15～20度で、多湿条件で孢子形成率が高くなりますので、注意が必要です。

| 播種時期 | 開花時期 | カメムシ類及び紫斑病の防除適期 |
|-------|--------|-----------------|
| 6月18日 | 8月5日頃 | 9月4日～9月9日頃 |
| 7月10日 | 8月22日頃 | 9月21日～9月26日頃 |

○使用農薬

| | 農薬名 | 10a当たり 使用量 希釈倍率 | 使用液量 | ハスモン ヨトウ | カメムシ 類 | 紫斑病 | 使用時期(収穫 前) | 使用回数 |
|--------|-------------|-----------------------|----------|-------------|-----------|-----|---------------|------|
| 粉 剤 | トレボン粉剤DL | 4kg | — | ○ | ○ | | 14日前まで | 2回 |
| | アルバリン粉剤DL | 3kg | — | | ◎ | | 7日前まで | 2回 |
| | スミトップM粉剤 | 3~4kg | — | | ○ | ○ | 21日前まで | 4回 |
| 液 剤 | プレバソフフロアブル5 | 4,000倍 | 100~300L | ◎ | | | 7日前まで | 2回 |
| | トレボンEW | 1,000倍 | | ○ | ○ | | 14日前まで | 2回 |
| | アルバリン顆粒水溶剤 | 2,000倍 | | | ◎ | | 7日前まで | 2回 |
| | トップジンM水和剤 | 700~1,500倍 | | | | ○ | 14日前まで | 4回 |

雑草対策

一部のほ場では、イネ科雑草、アサガオ類、タデ・ケイトウ類等が目立っています。大型雑草は早めに抜き取りましょう。イネ科雑草には以下の除草剤が使用可能です。

| 除草剤名 | 10a 当たり使用量 | 希釈水量 | 使用時期 | 使用回数 |
|----------|------------|---------|-------------------------------|------|
| ポルトフロアブル | 200~300ml | 50~100ℓ | イネ科雑草 3~10 葉期 (収穫 30 日前まで) | 1 回 |

※周囲の水稲には絶対かからないように注意して散布して下さい

■帰化アサガオ等一年生雑草が多発の場合

バスタ液剤による畦間・株間処理（収穫 28 日前まで。薬液 300~500ml / 10a
水量 100~150ℓ / 10a）で対応してください（大豆や付近の作物にかからないよう注意）。